

2016年12月22日

米海軍厚木航空施設司令官

ジョン F.ブッシー大佐様

厚木基地爆音防止期成同盟

委員長 大波 修二

第四次厚木爆音訴訟原告団

団長 金子豊貴男

原子力空母の母港化に反対し基地のない神奈川をめざす県央共闘会議

共同代表 高久 保

神奈川平和運動センター

代表 福田 護

厚木基地における空母艦載機の飛行訓練及び

12月13日の名護市東沿岸オスプレイ墜落事故及び胴体着陸事故等について

(抗議と申し入れ) (案)

2016年11月16日、厚木基地に空母艦載機が戻って来た。その翌週の21日から、艦載機の本格的な訓練が開始され、基地周辺は激しい爆音に見舞われている。日によっては午前7時台に始まり断続的に離陸が繰り返される。そして、着陸に際しては、多いときには4機編隊で飛び、その4機ともタッチアンドゴー（離発着訓練）を行い、垂直に近い角度で急上昇し、基地周辺上空を旋回するということがあった。タッチアンドゴーは連日目撃されている。空母出港前の離着陸訓練に匹敵する爆音が振りまかれている。さらに、編隊を組んだ機が異常に接近しているのも目撃されている。

貴職は、住宅密集地においてこのような飛行を行うことの危険性を認識できないのか。事故が起きるはずはないとでも言うのか。今年10月及び11月には、米本国でFA18が離陸時に墜落する事故や2機が接触して墜落する事故も起きていることを日本国民が知らないとも思っているのか。

国内でも事故が続いた。9月22日に沖縄本島沖で岩国基地所属のAV8Bハリヤーが墜落、12月7日には、同じくFA18が四国沖で墜落しパイロット一名が亡くなっている。

そして、12月13日、普天間基地所属のMV22オスプレイが名護市東沿岸に墜落、同じ日、別のオスプレイも普天間基地に胴体着陸をした。啞然とせざるを得ない。しかも米四軍調整官は、事故に対して謝罪もせず、民家を避けたことに感謝しろという暴言を吐いた。この暴言に貴職も同調するのか。

オスプレイは厚木基地にもたびたび飛来しているが、そのたびに機体の不具合が疑われる状況も見受けられる。にもかかわらず、昨年8月には、タッチアンドゴーを行い、住宅密集地を旋回した。

同機は、構造的な欠陥があるといわれ、開発段階から重大事故が続き、今以て事故率は下がっていない。しかも米本国でも直近に事故を起こしているではないか。去る10月26日に米国メリーランド州パタクセントリバー海軍航空施設でクラスAの事故が起きたと伝えられている。また、12月1日にはカリフォルニア州ミラマー基地で緊急着陸する事態が起きている。そして、今回の墜落事故である。

すでに、米海兵隊は、上述の、事故を起こした AV8B ハリアー、FA18 ホーネットの同型機の飛行を再開させている。これらの事故原因は究明されたのか。

さらにもう一つ、オスプレイ事故についても、機体は制御されていた、機体の構造に問題はないとして、19日に飛行を再開させた。事故時の飛行高度、位置、墜落までの経過なども明らかされていない。まして普天間基地内での胴体着陸事故の詳細も明らかにされていないではないか。この段階での飛行再開に理解を示すものなど一人もいない。

ケネディ駐日大使は「地域住民の安全が第一」と語っているが、本当にそう思うのであれば、本国でのこれまでの事故も含め、すべての事故原因が明らかにされるまでは飛行を中止すべきではないか。

貴職は日頃から基地周辺住民との友好親善に努めると発言している。しかし、この間の厚木基地所属の空母艦載機の飛行は、住民を恐怖に陥れるもので、「よき隣人」が示す友好的なものとはほど遠い。また、ニコルソン四軍調整官発言をはじめとする、オスプレイの事故にまつわるこの間の沖縄海兵隊の対応に対し、基地周辺の住民だけではなく、オスプレイや米軍機が上空を飛行する全国各地の市民が怒りと憤りを感じている。

については貴職に対し、次のことを申し入れる。責任をもって、上司・上部機関に伝えていただきたい。

■厚木基地の飛行関連

- 1 厚木基地のタッチアンドゴー、編隊飛行を含む訓練を今すぐ止めさせること。
- 2 早朝及び夜間の訓練飛行を行わないこと。
- 3 米本国での FA18 の事故、9月の沖縄での AV8B、12月の高知県沖の FA18 の事故などについて、事故の調査経過、原因を海兵隊に公表させること。
- 4 3にあげた事故機の同型機の飛行を、今すぐに中止させること。

■オスプレイの事故関連

- 5 2016年12月13日、沖縄県名護市東沿岸で発生したオスプレイ墜落事故及び普天間基地内の胴体着陸について事故の経過、原因を日本国民に詳細に説明するよう米海兵隊等関係組織に伝えること。
- 6 事故の原因究明については日本政府と共同で行うこと、沖縄県および名護市など地元自治体職員を立ち会わせることを米海兵隊にもうしれること。
- 7 オスプレイの飛行をすぐに中止し、安全性に目途が付くまでは、普天間配備のオスプレイを撤去するよう米国政府に進言すること。
- 8 これまでのオスプレイにかかわる2014年10月のペルシア湾での事故、2015年5月のハワイでの事故、2015年12月のサンディエゴ沖の事故及び今年10月26日に起きたメリーランド州の事故の事故調査結果について、日本国民に開示するよう米国政府に進言すること。
- 9 米空軍 CV-22 オスプレイの横田基地配備計画の中止するよう米政府に進言すること。
- 10 千葉県木更津駐屯地における米軍オスプレイの整備工場計画を見直すこと。
- 11 空母連絡機 C2 の後継機としてのオスプレイ配備を撤回させること。